

実例からまなぶ、上手なしかり方・ダメなしかり方 ~児童編~

「しかるってむずかしい・・・」そう思っている方に次の実例がきっと役立つと思います。

夕方の台所での出来事から

娘の美咲は、小学校4年生の女の子。ちょうど今、家に帰ってきました。母親は台所で忙しそうに夕食の炒め物を作っています。美咲は、お母さんの後ろに立って話しはじめました。

美咲:「ただいま」

母親:「おかえり」

美咲:「ねえ、ねえ、ねえ、お母さん 聞いて 聞いて。」

母親:「え!なにに?」

美咲:「今日ね、学校でクラブ活動の説明があったの」

母親:「ふーん。」

美咲:「それでね、私、ミニバスケットクラブかソフトボールクラブに入ろうと思うんだけど? お母さんは、どっちがいいと思う?」

母親:「・・・」

美咲:「お母さん、聞いている?」

母親:「聞いているわよ。」

美咲:「ねえ、お母さん どっちがいいと思う。」

そう言うと、美咲はお母さんの腕を引っ張ってきました



そんな時、あなたならお子さんに何て声をかけますか?



良い例

○「ごめんね美咲!今、夕食の準備で忙しいから終わってから聞くね。」

○「美咲、今、お母さん夕食の準備でゆっくり話ができないから、あと5分待っててね。そしたら、ちゃんと話を聞くね」

悪い例

○「美咲!見てわからないの!お母さん料理してるんだから後にしてちょうだい。」

○「腕を引っ張ったら危ないでしょう!今、お母さん忙しいんだからあっち行って!!」